

第13回出生動向基本調査

結婚と出産に関する全国調査

独身者調査－結果の要約

○ 調査の概要

出生動向基本調査は、わが国における結婚と出産に関する実状、背景ならびに意識を定期的に調査・計量し、関連する諸施策ならびに人口動向の把握等に必要となる基礎データを得ることを目的とする全国標本調査である。全体は夫婦調査と独身者調査の二つの調査から構成される。本報告は、第13回調査、独身者調査の結果概要についてのものである。

調査期日：2005年6月1日

調査対象：全国の年齢18歳以上50歳未満の独身者

調査票配布数－12,482票 有効票数－8,734票（有効回収率70.0%）

調査事項：① 独身者の社会経済的屬性

② 結婚に関する意欲・意識

③ 異性交際に関する事項

④ 生活や女性の健康に関する事項

⑤ ライフコースや子ども数に関する意識

⑥ 結婚・家族に関する意識と評価

※ 概要報告では18歳以上35歳未満の未婚者の調査結果を中心に報告する。報告中とくにごとわらないかぎり、未婚者とは18歳以上35歳未満未婚男女を指す。

○ 調査結果のポイント（ ）内は公表資料「結果の概要」ページ番号。※印は新規項目。

1. 結婚という選択－若者たちの結婚離れを探る－

結婚意思を持つ未婚者は9割で推移、結婚を先のばしする意識は継続、

非正規就業者や無職の未婚男性で結婚意欲、結婚の利点を感じる割合が低い

- 1) 過去に減少傾向にあった「いずれ結婚するつもり」、「ある程度の年齢までには結婚するつもり」の未婚者割合は横這いか、わずかながら取り戻しを示している(p.2)。しかし、当面の結婚に対しては主な年齢層で「まだ結婚するつもりはない」とする未婚者が継続して増えている(p.3)。就業の状況別にみると男性では正規就業者や自営業等で結婚意欲が高く、非正規就業者や無職で低い傾向が顕著である(p.4)。
- 2) 結婚することには利点があると考える未婚者がやや増えた(p.4)。若い層を中心に「子どもや家族をもてる」ことに利点を感じずる人が増えたことなどによる(p.6)。この結婚に利点を感じずる割合も就業状況で違いがあり、正規就業者で高く、非正規就業者や無職で低い傾向がある(p.5)。

独身にとどまる理由、若い年齢層の女性を中心に「仕事(学業)にうちこみたいから」が継続増加

- 1) 未婚者が独身にとどまっている理由は、若い年齢層を中心に「仕事(学業)にうちこみたいから」が継続的に増えていて、女性でより顕著である。前回に比べると「適当な相手にめぐり合わない」や、男性では「結婚資金が足りない」がやや増えた(p.7)。

2. パートナーシップ－ゆらぐ男女のかかわり－

異性との交際は低調なまま推移、同棲経験者は25歳以上で微増、性経験率は男女とも頭打ち傾向

- 1) 未婚男性の過半数、女性の4割強は異性の交際相手を持っておらず、この割合は女性で今回やや増えるなど、異性交際の状況は低調なまま推移している。ただ今回、これまで減少傾向だった結婚したいと思う交際相手を持つ未婚男性の割合がやや増えた(p.8)。

- 2) 同棲していると回答した未婚者は男女とも2%前後といまだ少数派だが、過去に同棲を経験した割合はわずかずつ増え、20歳代後半以降は男女ともほぼ1割に達している(p. 8)。
- 3) 未婚者の性経験率はこれまで増加傾向にあり、女性で顕著であったが、今回調査では男女ともに頭打ち傾向となっている(p. 9)。経験者の避妊実行の割合は男女とも8割強で、ほとんどがコンドームであった(p. 9※)

3. 希望の結婚像—どんな結婚を求めているのか—

希望する結婚年齢の上昇傾向が頭打ち、女性ではより年齢の近い結婚相手を望む傾向も一段落

- 1) 未婚者が結婚したいと思う年齢は上昇が続いていたが、今回調査ではおおむね上げ止まっており、男性ではわずかに下がる傾向も見られる(p. 10)。
- 2) 男女とも自分と近い年齢の結婚相手を望む傾向が強まっていたが、今回調査では女性でこの変化傾向に一定の休止が見られ、一段落を示している(p. 10)。

未婚女性の理想・予定のライフコースで「両立」が増加、男性が女性に望むコースでも増加傾向

- 1) 未婚の女性が理想とするライフコース、実際になりそうだと考えるライフコースでは、ともに仕事と育児の両立コースが増加した。男性が女性に期待するコースでも両立コースが3割近くに達し、専業主婦を望む人は急速に減少している。また、理想、予定とも両立コースを選択する未婚女性は、正規雇用者など安定した仕事に就いている人に多いが、理想と予定の間には一定のギャップが見られる(p. 11)。

未婚男女の希望子ども数は下げ止まり、就業状況や本人のきょうだい数で差

- 1) 未婚者が持ちたいと望む子どもの数は近年一貫して減少してきたが、今回調査では男女ともに下げ止まりが見られた。また、今回初めて女性の希望子ども数が男性を上回った(p. 12)。
- 2) 希望子ども数は、男性の自営業で多い傾向があり、男女とも非正規就業者、無職・家事で少ない傾向が見られる。また、本人のきょうだい数で差が見られ、一人っ子や2人きょうだいに比べて3人以上のきょうだいの場合に希望子ども数が多い傾向がある(p. 13※)。

4. 未婚者の生活と意識—若者たちを取り巻く状況と意識—

未婚男性の親との同居率は横這い

- 1) 未婚者の親との同居率は、近年男性で上昇を示したが、今回調査ではおおむね横這いとなった。女性では年齢により傾向が異なり、従来低かった30~34歳の同居率が上昇する傾向がみられた(p. 14)。
- 2) 未婚男性の親との同居率は就業の状況により異なり、無職・家事、自営業等、パート・アルバイトで高く(80%台)、正規雇用、学生で低い(60%台)。女性では、学生を別にすると就業の状況による同居率の差は小さいが、やはり無職・家事、パート・アルバイトで高い傾向が見られる(p. 14-15)。

未婚女性の5人に一人が妊娠・出産にかかわる健康に問題を抱えている

- 1) 18歳~34歳の未婚女性の5人に1人は、妊娠や出産にかかわる健康について問題や障害を感じている。最も多いのは月経にかかわる問題で、30歳代では婦人科系の障害や不妊を心配する人も多い(p. 15※)。

結婚・家族を支持する意識に復調、周囲の結婚・子育てに肯定的な人は結婚意欲が高め

- 1) 未婚者の結婚・家族に対する意識は、概して家族・結婚を支持する意識に復調が見られる。「生涯独身はよくない」「同棲するなら結婚すべき」「離婚はすべきでない」「子どもは持つべき」「結婚に犠牲は当然」などで支持が増えている。しかし「夫は仕事、妻は家庭」と考える人は継続的に減少している(p. 16)。
- 2) 父親がよく家事をしていたと答えたのは男女とも2割台で、6~7割の人が周囲やマスコミから結婚や出産・子育てについてたいへんそうだと聞いている。親や友人の夫婦関係・結婚に対しては、「うらやましい」「幸せそう」と感じている人が半数程度おり、そうでない人と比較すると結婚意欲が高い(p. 17※)。

第13回出生動向基本調査 結婚と出産に関する全国調査 独身者調査の結果概要

調査の概要

- (1) 調査の目的と沿革
 - (2) 調査手続きと調査票回収状況
1. 結婚という選択－若者たちの結婚離れを探る－
 - (1) 結婚の意欲
 - (2) 結婚の利点・独身の利点
 - (3) なぜ結婚しないのか？
 2. パートナーシップ－ゆらぐ男女のかかわり－
 - (1) 異性との交際
 - (2) 同棲
 - (3) 性経験と避妊
 3. 希望の結婚像－どんな結婚を求めているのか－
 - (1) 希望する結婚年齢
 - (2) 希望するライフコース
 - (3) 子ども数についての希望
 4. 未婚者の生活と意識－若者たちを取り巻く状況と意識－
 - (1) 親との同居と就業の状況
 - (2) 女性の健康
 - (3) 結婚・家族に関する意識と評価

国立社会保障・人口問題研究所

担当：人口動向研究部

TEL (03) 3595-2984 内線 4474・4471

<http://www.ipss.go.jp>

調査の概要

(1) 調査の目的と沿革

国立社会保障・人口問題研究所は2005(平成17)年6月、第13回出生動向基本調査(結婚と出産に関する全国調査)を実施した。この調査は他の公的統計では把握することのできない結婚ならびに夫婦の出生力に関する実状と背景を定期的に調査・計量し、関連諸施策ならびに将来人口推計をはじめとする人口動向把握に必要な基礎資料を得ることを目的としている。本調査は、戦前の1940(昭和15)年に第1回調査、ついで戦後の1952(昭和27)年に第2回調査が行われて以来、5年ごとに「出産力調査」の名称で実施されてきたが、第10回調査(1992年)以降名称を「出生動向基本調査」に変更して今回に至っている。第8回調査(1982年)からは夫婦を対象とする夫婦調査に加えて、独身者を対象とする独身者調査を同時実施している。なお、今回調査は、分析結果のより高い信頼性を確保するために、基礎事項の国勢調査結果との比較が可能となるよう、従来調査時期を2年早めて2005(平成17)年に実施したものである。本概要報告は、第13回調査の独身者調査についてのものである。

(2) 調査手続きと調査票回収状況

本調査は、全国の年齢18歳以上50歳未満の独身者を対象とした全国標本調査であり、平成17年6月1日現在の事実について調べたものである。調査対象地区は、平成17年「国民生活基礎調査」(厚生労働省大臣官房統計情報部実施)の調査地区1,048カ所(平成12年国勢調査区から層化無作為抽出)の中から選ばれた700地区である。このうち所得票対象単位区以外の全ての世帯に居住する18歳以上50歳未満のすべての独身者が本調査の客体となる。

調査方法は配票自計、密封回収方式によった。その結果、調査票配布数(調査客体数)12,482票に対して、回収数は9,900票であり、回収率は79.3%であった(前回調査84.6%)。ただし、回収票のうち記入状況の悪い1,166票は無効票として集計対象から除外した。したがって、有効票数は8,734票であり、有効回収率は70.0%である(同75.3%)。なお、本報告では18歳以上35歳未満の未婚男女を中心に集計分析を行った。

表1 調査票配布数、有効回収数ならびに率

調査票の回収状況	
調査客体数	12,482
回収票数	9,900 (回収率 79.3%)
有効票数	8,734 (有効回収率 70.0%)

表2 男女年齢別未婚者数

年 齢	第13回調査未婚者数		(参考) 第12回調査未婚者数	
	男 性	女 性	男 性	女 性
総 数	4,002 (100.0%)	3,583 (100.0%)	4,665 (100.0%)	3,938 (100.0%)
18～34歳小計	3,139 (78.4%)	3,064 (85.5%)	3,897 (83.5%)	3,494 (88.7%)
18～19歳	422 (10.5%)	541 (15.1%)	706 (15.1%)	591 (15.0%)
20～24歳	1,025 (25.6%)	1,187 (33.1%)	1,405 (30.1%)	1,394 (35.4%)
25～29歳	1,025 (25.6%)	834 (23.3%)	1,124 (24.1%)	1,012 (25.7%)
30～34歳	667 (16.7%)	502 (14.0%)	662 (14.2%)	497 (12.6%)
35～39歳	412 (10.3%)	255 (7.1%)	323 (6.9%)	211 (5.4%)
40～44歳	270 (6.7%)	161 (4.5%)	232 (5.0%)	136 (3.5%)
45～49歳	181 (4.5%)	103 (2.9%)	213 (4.6%)	97 (2.5%)

1. 結婚という選択 - 若者たちの結婚離れを探る -

(1) 結婚の意欲

結婚する意思をもつ未婚者は9割で推移

いずれは結婚しようとする未婚者の割合は、近年わずかずつ減る傾向にあったが、前回調査(2002年)以降下げ止まりが見られ、今回調査でも男女とも9割程度で推移している。逆に「一生結婚するつもりはない」とする未婚者は男性でやや増えて7%台となったが、女性では5%台にとどまっている。

表1-1 調査別にみた、未婚者の生涯の結婚意思

【 男 性 】						
生涯の結婚意思	第8回調査 (1982年)	第9回 (1987年)	第10回 (1992年)	第11回 (1997年)	第12回 (2002年)	第13回 (2005年)
いずれ結婚するつもり	95.9%	91.8	90.0	85.9	87.0	87.0
一生結婚するつもりはない	2.3	4.5	4.9	6.3	5.4	7.1
不詳	1.8	3.7	5.1	7.8	7.7	5.9
総数(18~34歳) (標本数)	100.0% (2,732)	100.0 (3,299)	100.0 (4,215)	100.0 (3,982)	100.0 (3,897)	100.0 (3,139)

【 女 性 】						
生涯の結婚意思	第8回調査 (1982年)	第9回 (1987年)	第10回 (1992年)	第11回 (1997年)	第12回 (2002年)	第13回 (2005年)
いずれ結婚するつもり	94.2%	92.9	90.2	89.1	88.3	90.0
一生結婚するつもりはない	4.1	4.6	5.2	4.9	5.0	5.6
不詳	1.7	2.5	4.6	6.0	6.7	4.3
総数(18~34歳) (標本数)	100.0% (2,110)	100.0 (2,605)	100.0 (3,647)	100.0 (3,612)	100.0 (3,494)	100.0 (3,064)

設問「自分の一生を通じて考えた場合、あなたの結婚に対するお考えは、次のうちのどちらですか。」

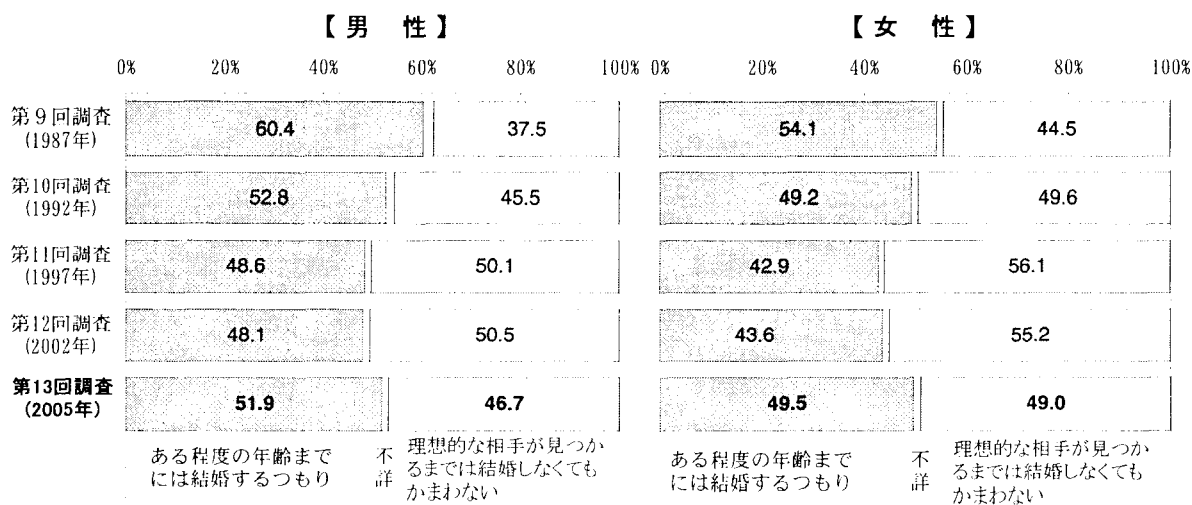
1. いずれ結婚するつもり、2. 一生結婚するつもりはない

注：対象は18~34歳未婚者。年齢別の詳細な数値は付表1(巻末)参照。

結婚年齢にこだわる未婚者が増える

結婚する意思のある未婚者のうち「ある程度の年齢までには結婚したい」と考える者は、近年減少傾向にあったが、前回調査(2002年)から傾向が変わり、今回はやや持ち直して「理想の相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわない」とする者と五分五分の構成に戻った。

図1-1 調査別にみた、結婚意思をもつ未婚者の結婚に対する考え方



注：対象は「いずれ結婚するつもり」と答えた18~34歳未婚者。詳細な数値は付表2(巻末)参照。

調査の概要

(1) 調査の目的と沿革

国立社会保障・人口問題研究所は2005(平成17)年6月、第13回出生動向基本調査(結婚と出産に関する全国調査)を実施した。この調査は他の公的統計では把握することのできない結婚ならびに夫婦の出生力に関する実状と背景を定期的に調査・計量し、関連諸施策ならびに将来人口推計をはじめとする人口動向把握に必要な基礎資料を得ることを目的としている。本調査は、戦前の1940(昭和15)年に第1回調査、ついで戦後の1952(昭和27)年に第2回調査が行われて以来、5年ごとに「出産力調査」の名称で実施されてきたが、第10回調査(1992年)以降名称を「出生動向基本調査」に変更して今回に至っている。第8回調査(1982年)からは夫婦を対象とする夫婦調査に加えて、独身者を対象とする独身者調査を同時実施している。なお、今回調査は、分析結果のより高い信頼性を確保するために、基礎事項の国勢調査結果との比較が可能となるよう、従来の調査時期を2年早めて2005(平成17)年に実施したものである。本概要報告は、第13回調査の独身者調査についてのものである。

(2) 調査手続きと調査票回収状況

本調査は、全国の年齢18歳以上50歳未満の独身者を対象とした全国標本調査であり、平成17年6月1日現在の事実について調べたものである。調査対象地区は、平成17年「国民生活基礎調査」(厚生労働省大臣官房統計情報部実施)の調査地区1,048カ所(平成12年国勢調査区から層化無作為抽出)の中から選ばれた700地区である。このうち所得票対象単位区以外の全ての世帯に居住する18歳以上50歳未満のすべての独身者が本調査の客体となる。

調査方法は配票自計、密封回収方式によった。その結果、調査票配布数(調査客体数)12,482票に対して、回収数は9,900票であり、回収率は79.3%であった(前回調査84.6%)。ただし、回収票のうち記入状況の悪い1,166票は無効票として集計対象から除外した。したがって、有効票数は8,734票であり、有効回収率は70.0%である(同75.3%)。なお、本報告では18歳以上35歳未満の未婚男女を中心に集計分析を行った。

表1 調査票配布数、有効回収数ならびに率

調査票の回収状況	
調査客体数	12,482
回収票数	9,900 (回収率 79.3%)
有効票数	8,734 (有効回収率 70.0%)

表2 男女年齢別未婚者数

年 齢	第13回調査未婚者数		(参考) 第12回調査未婚者数	
	男 性	女 性	男 性	女 性
総 数	4,002 (100.0%)	3,583 (100.0%)	4,665 (100.0%)	3,938 (100.0%)
18～34歳小計	3,139 (78.4%)	3,064 (85.5%)	3,897 (83.5%)	3,494 (88.7%)
18～19歳	422 (10.5%)	541 (15.1%)	706 (15.1%)	591 (15.0%)
20～24歳	1,025 (25.6%)	1,187 (33.1%)	1,405 (30.1%)	1,394 (35.4%)
25～29歳	1,025 (25.6%)	834 (23.3%)	1,124 (24.1%)	1,012 (25.7%)
30～34歳	667 (16.7%)	502 (14.0%)	662 (14.2%)	497 (12.6%)
35～39歳	412 (10.3%)	255 (7.1%)	323 (6.9%)	211 (5.4%)
40～44歳	270 (6.7%)	161 (4.5%)	232 (5.0%)	136 (3.5%)
45～49歳	181 (4.5%)	103 (2.9%)	213 (4.6%)	97 (2.5%)

1. 結婚という選択 - 若者たちの結婚離れを探る -

(1) 結婚の意欲

結婚する意思をもつ未婚者は9割で推移

いずれは結婚しようとする未婚者の割合は、近年わずかずつ減る傾向にあったが、前回調査(2002年)以降下げ止まりが見られ、今回調査でも男女とも9割程度で推移している。逆に「一生結婚するつもりはない」とする未婚者は男性でやや増えて7%台となったが、女性では5%台にとどまっている。

表1-1 調査別にみた、未婚者の生涯の結婚意思

【 男 性 】

生涯の結婚意思	第8回調査 (1982年)	第9回 (1987年)	第10回 (1992年)	第11回 (1997年)	第12回 (2002年)	第13回 (2005年)
いずれ結婚するつもり	95.9%	91.8	90.0	85.9	87.0	87.0
一生結婚するつもりはない	2.3	4.5	4.9	6.3	5.4	7.1
不詳	1.8	3.7	5.1	7.8	7.7	5.9
総数(18~34歳) (標本数)	100.0% (2,732)	100.0 (3,299)	100.0 (4,215)	100.0 (3,982)	100.0 (3,897)	100.0 (3,139)

【 女 性 】

生涯の結婚意思	第8回調査 (1982年)	第9回 (1987年)	第10回 (1992年)	第11回 (1997年)	第12回 (2002年)	第13回 (2005年)
いずれ結婚するつもり	94.2%	92.9	90.2	89.1	88.3	90.0
一生結婚するつもりはない	4.1	4.6	5.2	4.9	5.0	5.6
不詳	1.7	2.5	4.6	6.0	6.7	4.3
総数(18~34歳) (標本数)	100.0% (2,110)	100.0 (2,605)	100.0 (3,647)	100.0 (3,612)	100.0 (3,494)	100.0 (3,064)

設問「自分の一生を通じて考えた場合、あなたの結婚に対するお考えは、次のうちのどちらですか。」

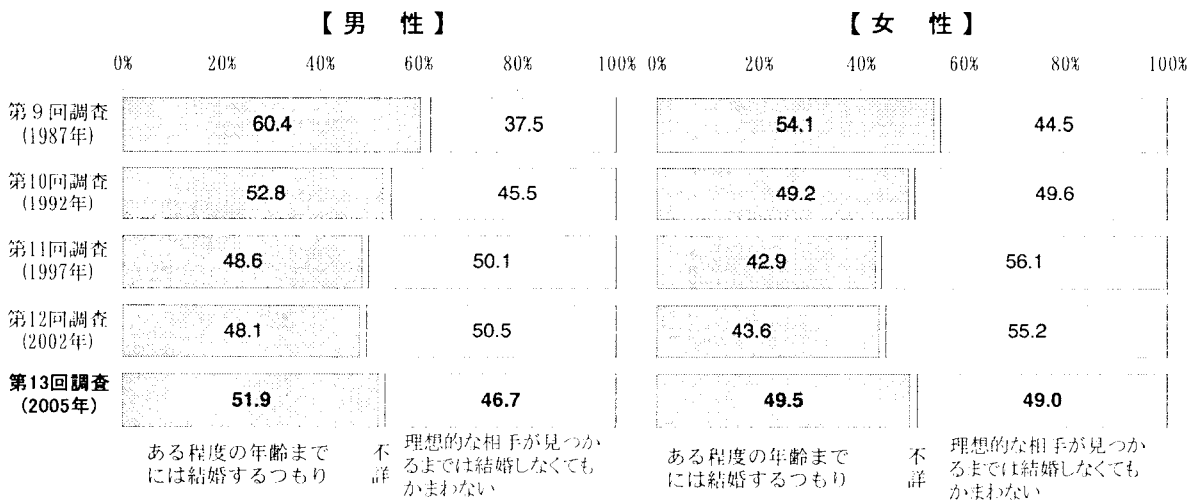
1. いずれ結婚するつもり、2. 一生結婚するつもりはない

注：対象は18~34歳未婚者。年齢別の詳細な数値は付表1(巻末)参照。

結婚年齢にこだわる未婚者が増える

結婚する意思のある未婚者のうち「ある程度の年齢までには結婚したい」と考える者は、近年減少傾向にあったが、前回調査(2002年)から傾向が変わり、今回はやや持ち直して「理想の相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわない」とする者と五分五分の構成に戻った。

図1-1 調査別にみた、結婚意思をもつ未婚者の結婚に対する考え方



結婚を先のぼしする意識は継続

一年以内の結婚について「まだ結婚するつもりはない」と回答した未婚者は、女性20歳代後半を除き増加傾向にあり、結婚を先のぼしする意識は引き続き増加する傾向にある。

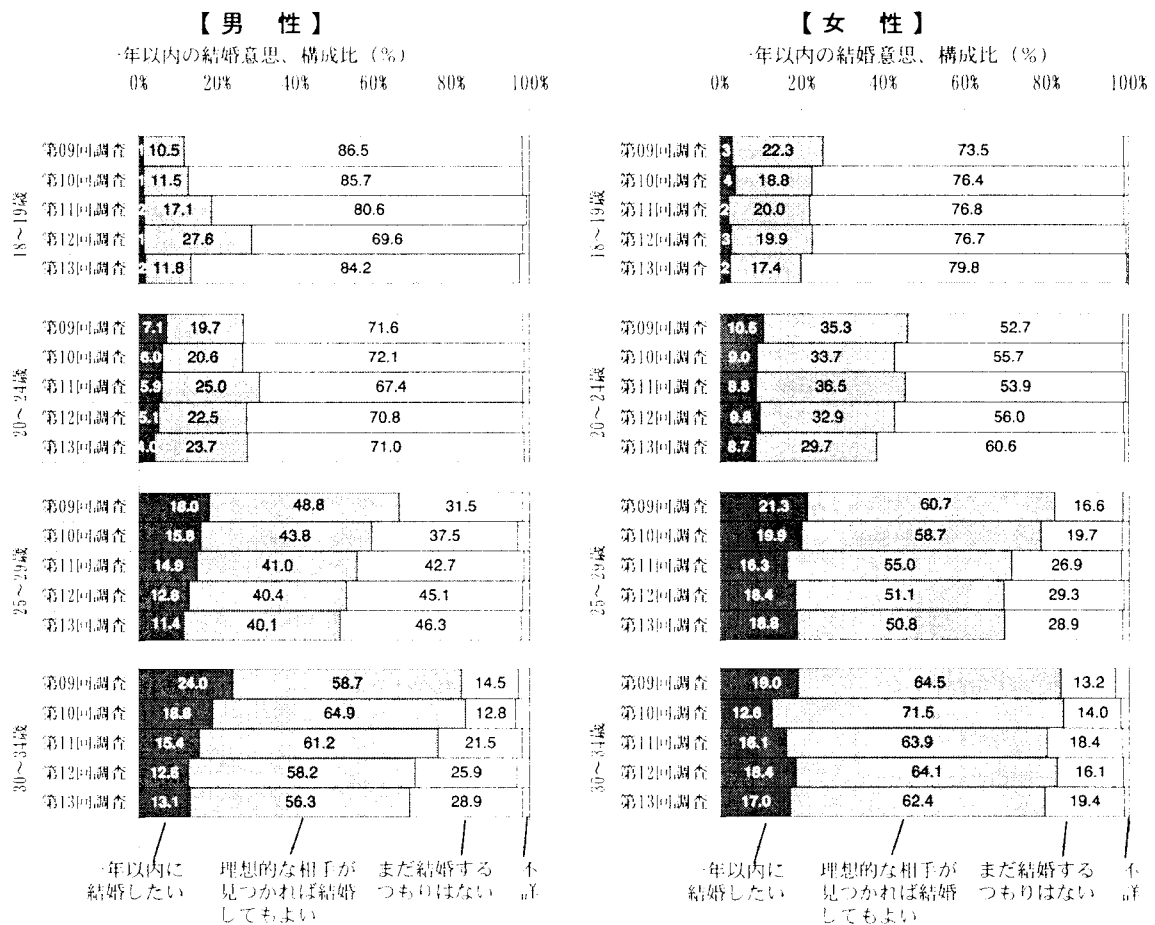
表1-2 調査・年齢別にみた、「まだ結婚するつもりはない」と回答した未婚者の割合

年 齢	【男 性】					【女 性】				
	第9回調査 (1987年)	第10回 (1992年)	第11回 (1997年)	第12回 (2002年)	第13回 (2005年)	第9回調査 (1987年)	第10回 (1992年)	第11回 (1997年)	第12回 (2002年)	第13回 (2005年)
18～19歳	86.5%	85.7	80.6	69.6	84.2	73.5%	76.4	76.8	76.7	79.8
20～24歳	71.6	72.1	67.4	70.8	71.0	52.7	55.7	53.9	56.0	60.6
25～29歳	31.5	37.5	42.7	45.1	46.3	16.6	19.7	26.9	29.3	28.9
30～34歳	14.5	12.8	21.5	25.9	28.9	13.2	14.0	18.4	16.1	19.4
総数(18～34歳)	57.3%	59.3	56.5	55.9	56.0	49.5%	50.7	47.7	46.3	48.8
参考(35～39歳)	—	9.8	13.9	20.6	22.3	—	12.6	13.6	16.0	12.8

設問 それでは今から一年以内の結婚に関してはどのようにお考えですか。

1. 一年以内に結婚したい、2. 理想的な相手が見つければ結婚してもよい、3. まだ結婚するつもりはない。
注: 対象は「いずれ結婚するつもり」と答えた18～34歳未婚者。「一年以内に結婚したい」「理想的な相手が見つければ結婚してもよい」と回答した割合については付表3(巻末)参照。なお、参考として第10回調査以降について35～39歳の状況を示した。

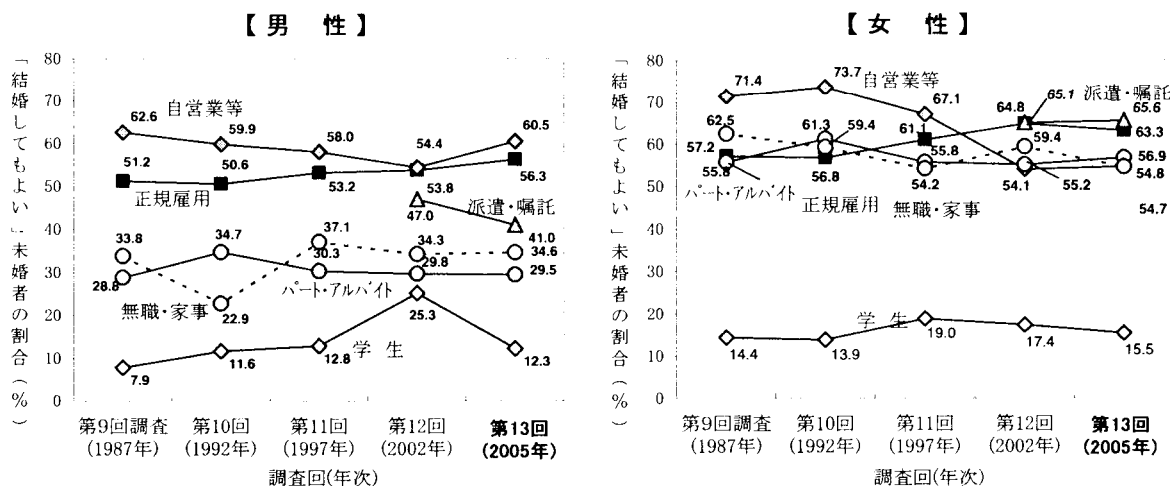
図1-2 調査・年齢別にみた、一年以内の結婚意思



男性では就業の状況によって結婚意欲が異なる

「いずれ結婚するつもり」と回答した未婚者の中で「一年以内に結婚したい」または「理想的な相手が見つければ結婚してもよい」と回答した未婚者の割合は、男性では就業の状況によって著しく異なる。自営業・家族従業等、正規雇用者で結婚してもよいと考える未婚者が多い。非正規就業者(パート・アルバイト)は無職・家事の人よりも結婚意欲が低い傾向にある。女性では学生を除くと男性ほどの差は見られないが、従来結婚意欲の高かった自営業・家族従業等の従事者で後退が見られ、相対的に正規雇用者、派遣・嘱託などの未婚者で意欲が高くなっている。

図1-3 就業の状況別にみた、一年以内に結婚してもよいと考える未婚者割合の推移



注：本図の数値は「いずれ結婚するつもり」と回答した18～34歳の未婚者の中で「一年以内に結婚したい」または「理想的な相手が見つければ結婚してもよい」と回答した未婚者の割合。派遣・嘱託の区分は第12回調査以降で追加された。就業の状況の構成については付表5(巻末)参照。

(2) 結婚の利点・独身の利点

「結婚には利点がある」と考える未婚者がやや増える

結婚することに利点があると感じている未婚男女はやや増えて、男性65.7%、未婚女性74.0%となった。逆に利点はないと考えているのは男性の28.6%、女性の21.5%である。一方、独身生活に利点があると考えている人は男性83.8%、女性87.2%と、結婚に利点を感じる割合よりかなり多く、こちらも今回やや増えた。

表1-3 調査別にみた、未婚者の結婚の利点・独身生活の利点に対する考え

		【男性】					【女性】				
		第9回調査 (1987年)	第10回 (1992年)	第11回 (1997年)	第12回 (2002年)	第13回 (2005年)	第9回調査 (1987年)	第10回 (1992年)	第11回 (1997年)	第12回 (2002年)	第13回 (2005年)
今のあなたにとって結婚することは	利点があると思う	69.1%	66.7	64.6	62.3	65.7	70.8%	71.4	69.9	69.4	74.0
	利点はないと思う	25.4	29.1	30.3	33.1	28.6	24.7	25.2	25.5	26.3	21.5
	不詳	5.5	4.2	5.1	4.6	5.7	4.5	3.4	4.6	4.3	4.5
合計		100.0%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0%	100.0	100.0	100.0	100.0
今のあなたにとって独身生活は	利点があると思う	83.0%	83.6	82.7	79.8	83.8	89.7%	89.0	88.5	86.6	87.2
	利点はないと思う	10.7	11.2	11.6	14.6	10.3	5.4	7.4	7.2	8.6	7.6
	不詳	6.3	5.2	5.7	5.6	5.9	4.9	3.6	4.3	4.8	5.1
合計		100.0%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0%	100.0	100.0	100.0	100.0
(標本数)		(3,299)	(4,215)	(3,982)	(3,897)	(3,139)	(2,605)	(3,647)	(3,612)	(3,494)	(3,064)

設問：「今のあなたにとって、結婚することは何か利点があると思いますか。」 1. 利点があると思う、2. 利点はないと思う、「それでは逆に今のあなたにとって、独身生活には結婚生活にはない利点があると思いますか。」

1. 利点があると思う、2. 利点はないと思う

注：対象は18～34歳未婚者。

年齢による結婚の利点の感じ方が一様になりつつある

結婚の利点の感じ方は従来20歳代後半で多く意識されていたが、近年これが減少し、逆に若い層で増加が見られた結果、男女とも年齢による違いが少なくなっている(図1-4)。一方、独身生活の利点の感じ方はもともと年齢による差が小さく、また調査によっても変化が少ない(図1-5)。

図1-4 年齢別にみた「結婚することは利点がある」と考える未婚者割合の推移
【男性】 【女性】

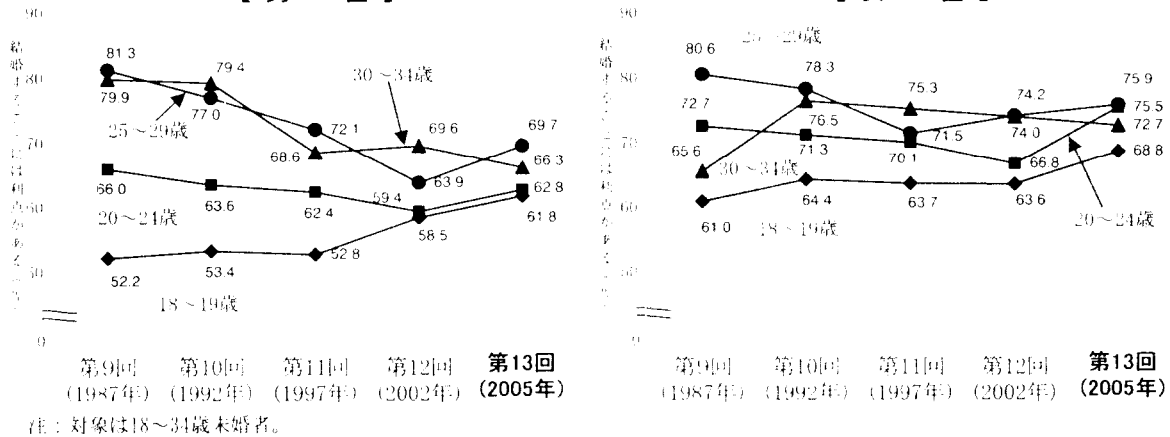
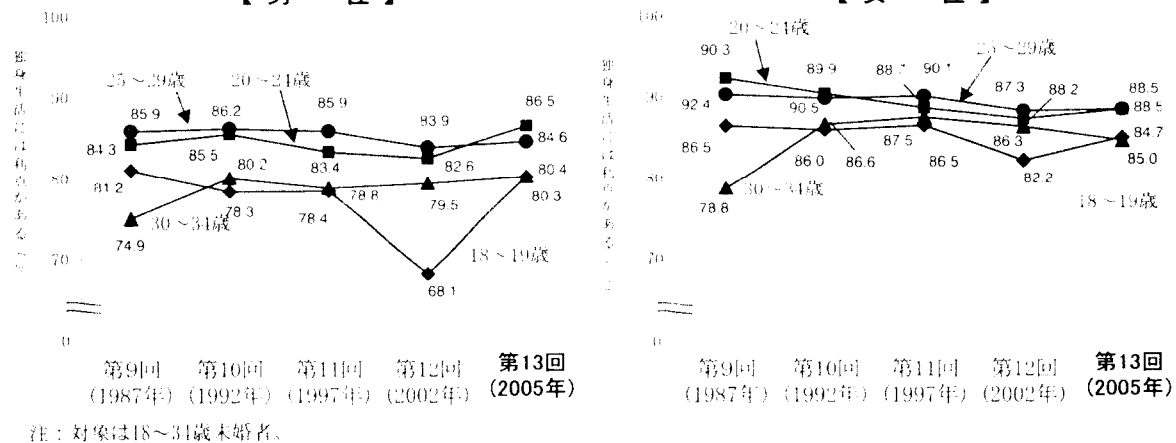


図1-5 年齢別にみた「独身生活は利点がある」と考える未婚者割合の推移
【男性】 【女性】



正規雇用者で高い結婚の利点

結婚の利点の感じ方は就業の状態によっても異なり、とくに男性では差が大きい(図1-6)。正規雇用者の場合、利点を感じる人は70%前後で安定的に推移しており、40~50%台の無職・家事等や非正規就業者(パート・アルバイト)から大きく隔たっている。女性では近年、利点の感じ方に就業の状況による差が明瞭となってきており、正規就業者、派遣・嘱託が最も高く、非正規就業者、無職・家事の順となっている。

図1-6 就業の状況別にみた「結婚することは利点がある」と考える未婚者割合の推移
【男性】 【女性】

